

自立のためのプロジェクト I

資料③

テーマ	“生まれてすぐのとき”＝受容のための援助
地域の理想像	障害を持って生まれてきた赤ちゃんとその新米パパ・ママ。「これからどうしよう」と思い悩んだとき、同じ障害を持つ子を育てている先輩パパ・ママと話し合う機会を得ます。先輩の「大丈夫！」という経験に裏付けされた力強い言葉にホッと一安心。そして同じ仲間が集うサークルの活動を通して、わが子の輝く未来を少しずつ感じとっていきます。
私たちが求める地域施策	
社会資源の開発・改善テーマ①	事業の実施主体
福祉施策や当事者団体の情報を紹介するパンフレット作成	当事者団体（但し市は企画委託料や印刷費負担）
アプローチ（具体的な手法や事業の内容）	
受容に悩む親子の力となり、情報交換の場となる障害児者の保護者団体や当事者団体の自己紹介パンフレットを作成する。それとともに、「この子にどのような制度が使えて、どのような手続きを踏めばいいのかわからない」という新米パパ・ママに対し、これからの生活において必要な社会資源についての情報を当事者の視点で整理し提供する。あわせて各種相談機関の問合せ先一覧も掲載する。なおパンフレットは医療機関や市社会福祉課、子育て総合センターや健診を行う健康増進課の窓口等に設置する。	
社会資源の開発・改善テーマ②	事業の実施主体
当事者サポーター派遣事業	派遣を了承する当事者親子（但し市は報償費負担）
アプローチ（具体的な手法や事業の内容）	
保健師や医療機関等からの情報をもとに、子どもの障害の受容に悩んでいる父母に対して、必要に応じ、近い背景を持つ先輩当事者やその家族を紹介・派遣する。また福祉団体、医療関係団体、民生委員など障害児施策に関わる様々な市民グループに対し、講師となる当事者を派遣することで、障害児者への理解促進を図る。	
社会資源の開発・改善テーマ③	事業の実施主体
新設される図書館に障害児者の情報拠点を創設	市（図書館及び新図書館建設準備室）
アプローチ（具体的な手法や事業の内容）	
障害児（者）政策にかかわる書籍や雑誌、ビデオおよび当事者団体の発行する機関紙や情報誌を取り揃えたコーナー（本棚）を設け、障害福祉政策の情報拠点とする。特に武生市内にあまり存在しない稀な障害についても（当事者市民の要望に応じ）情報を備える。また情報板を設置し、ここに障害児者団体のパンフレットやポスターを張り、一般市民に対する情報発信を試みる。市民誰もが利用し、最大の情報拠点である図書館に特設ブースを設けることで、当事者やその家族が必要な情報をすぐに入手できるようにするとともに、市が障害児者政策に力点を置いていることをアピールする。	